

2016年11月
No.16-134a(全)※1

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

■新規受託項目

- [-] ゾルピデム
- [-] ゾピクロン

※検査要領の詳細は裏面をご参照下さい。

■受託開始日

- 2016年11月7日(月)

以上

血中薬物検査(ゾルピデム/ゾピクロン)

ベンゾジアゼピン系化合物は副作用が比較的少ないため、広く用いられていますが、血中半減期が長く、ハングオーバーなどを生じるなどの短所があるとされています。

ゾルピデムおよびゾピクロンはともに非ベンゾジアゼピン系構造を持ち、半減期が短い短期作用型の精神・神経系用薬です。

【ゾルピデム】

日本では2000年に承認され、統合失調症及び躁うつ病に伴うもの以外の不眠症に適応が認められています。中枢の ω 1受容体に選択的に作用することにより催眠鎮静作用を発揮する速効性の超短時間型睡眠薬です。投与後1時間程度で最高血中濃度に到達し、半減期も3時間程とされています。

【ゾピクロン】

シクロピロロン系誘導体で日本では1989年に承認され、不眠症および麻酔前投薬において適応が認められています。ベンゾジアゼピンレセプターに結合することによりGABAレセプターに影響を及ぼし、GABA系の抑制機構を増強すると考えられており、ゾルピデムと近い薬物動態パラメータを有しています。なお、ゾピクロンの報告成分は、S体とR体を分離せずにご報告いたします。

両剤とも反応に個人差があり、また主要な代謝経路は肝であることから肝機能の状態により投与量を増減する必要があります。

適正な投与量の決定および維持、過剰投与による副作用を回避するためにも血中濃度測定は重要と考えられます。

■検査要領

| | | |
|----------|--|-----------|
| 項目コード | - | |
| 検査項目名 | ゾルピデム | ゾピクロン |
| 検体量/保存方法 | 血清 0.3mL* / 凍結 [採取容器:03 → 提出容器:ポリスピッツ] | |
| 検査方法 | LC-MS/MS | |
| 有効治療濃度 | (設定せず)ng/mL | |
| 所要日数 | 5~8日 | |
| 検査実施料 | 未収載 | |
| 主な商品名 | マイスリー | アモバン、ルネスタ |
| 備考 | *: 分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。 | |
| 検査委託先 | LSIメディエンス (→1) | |

■参考文献

Victorri-Vigneau C, et al: Eur J Clin Pharmacol 69(11):1965-1972, 2013.

Uchiumi M, et al: 日本神経精神薬理学雑誌 20(3):123-130, 2000.